

高校生キックボクサーの挑戦

空手から転向

高校生でプロデビュー

「判定3対0。勝者、山口秀虎！」響き渡る場内アナウンスに比べ、勝利の雄たけびを上げる若きキックボクサー。

高校3年生の山口秀虎さんは、2月12日、アクロス福岡で開催された「九州プロキックボクシングvol.18」の試合で初勝利を飾り、鮮烈なプロデビューを果たしました。

映画「ベストキッド」に憧れ、5歳の頃から空手を始めた山口さん。小学5年生で黒帯を取るまでになりましたが、大会で思うように結果を残せず、伸び悩んでいました。そこで、戦いの幅を広げるために、父の友人の紹介で、現在所属するM-3キックボクシングジムの門をたたきました。

中学時代は2つの競技を掛け持ちしていましたが、次第にキックボクシングの魅力に引き込まれ、高校生になるとプロという目標を胸にキックボクシング一本に専念。年上の選手ばかりのアマチュアの

試合で着実に勝利を重ね、待望のプロ団体からの試合のオファーを勝ち取りました。

「デビューが決まったときは心からうれしかったんです。地元や父の知り合いの企業が協賛し、特製のガウンとパンツを作ってくれました」

舞台はリングと学校 夢に向かって全力

キックボクシングと共に山口さんが目指すのが、尊敬する父と同じ建設業の道。試合や練習と並行して、夜遅くまで資格取得のための勉強に励んでいます。「学業との両立は大変だけど充実しています。ただ、試合前の減量だけは地獄です。好きなだけ食べる同級生を目の前に僕はササミ」と、山口さんは学生ファイターならではの苦労を語ります。

8月11日にプロ第2戦を控える山口さん。「試合に打ち込めるのは今だけかもしれない。悔いが残らないように全力を尽くします」そう語る彼の眼には静かな闘志と決意がみなぎっていました。

下段写真真左から
/迫力のスパーリング/デビュー戦。対戦相手に強烈な膝を放つ(本人提供)/たくさんの声援を背に、勝利をつかみ取った瞬間(本人提供)

